

## 令和3年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

##### 【低学年】

- 毎日のスピーチや授業の中での発表の場を設定し、話す・聞く活動を取り入れてきたことで、少しずつ話すことへの抵抗感が減り、分かりやすい話し方を意識できるようになってきている。
- 短文から始め、スモールステップで書き方を指導したり、説明する文章や詩、作文(あのねノート)など、文章を書く機会を多く設けたりした。それにより、したことや思ったことが詳しく書けるようになったとともに、「はじめ、中、おわり」の文章構成を意識して文章を書く児童が増えた。
- 物語文では、ワークシートや終末の活動を工夫することで、主人公や登場人物の心情をのびのび書いたり、自分の思いを表現したりする児童が増えた。
- 説明文では、ワークシートや終末の活動を工夫することで、文章の構造を捉え、大事な言葉を選んで内容をまとめられる児童が増えた。
- 定期的に小テストや繰り返し学習を取り入れたことで、平仮名や片仮名、漢字の定着を図ることができた。

##### 【中学年】

- 対話をする際には、互いの意見の共通点や相違点に着目しながら相手の話を聞き、自分の考えをまとめることができた。
- 「はじめ・中・終わり」の構成を考えて3つ以上の段落で構成した文章を書くことができるようになってきた。また、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しようと意識して文章を書けるようになった。
- 校内研究で説明文について取り組んだので、説明文の構成を理解し、中心文を見つけられる児童が増えた。
- 中学年で系統立てた指導を取り入れたことで、大事な言葉や文を見付けながら読み要点をまとめたり、書かれている内容を要約したりすることができる児童が増えた。
- 新出漢字の習得後、繰り返しの学習を行ったことで、漢字小テストの平均点が上がり定着を図ることができた。

##### 【高学年】

- 系統的な年間学習計画を立てたり、学習のパターンを設けたりしたことで、説明文や物語文の読み取りをはじめ、国語科全般の学習活動に見通しをもち、自信をもって授業に臨む姿が見られるようになった。
- 感染防止対策のため、これまでと同様の対話的活動については多くの制限があったが、ノートを活用すること、お互いの作品を読み合い表現のよさに気付くなど、これまでとは異なる対話方法を取り入れた。それにより、新たな学びの可能性が生まれた。
- 年間を通して対話的な活動を授業内に意図的に取り入れたことで、友達の見解や感想を共有し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童が増えた。
- 表現したものを発表し合うことを通して、互いに認め合い、自己肯定感を高めることができた。また、読書学習司書との連携も功を奏し、学級内や全校に対して、読み聞かせを行うなど、主体的な姿が見られていった。
- 児童が分からない言葉に出会った際、漢字辞典や国語辞典で調べることを継続してきたことで、国語科のみならず他教科でもそのような姿が見られるようになり、習慣化を図ることができた。

## (2) 課題

### 【低学年】

- ・話し合い活動やスピーチ活動を計画的に取り入れているが、話すことに苦手意識をもち、適切な大きさの声で話せない、または話す内容を決められない児童が一部見られる。感染症対策を講じた上での活動方法や、指導のさらなる工夫が必要だと感じた。
- ・文章の中で漢字や片仮名を正しく使えない児童や、「は、を、へ」、小さい「つ、や、ゆ、よ」の正しい使い方を習得できていない児童が一部見られる。

### 【中学年】

- ・日記や作文、学習感想など日々取り組んでいる書く活動において、苦手意識をもつ児童が見られる。書く活動の際には、相手や目的を意識させ、書く必然性のある題材にすることや、苦手意識をもつ児童へ書くポイントを提示したり、モデル文の提示や書き出しの例を与えたりするなど、支援をしていくことが必要だと考える。
- ・適切な接続語や指示語、助詞「て」「に」「を」「は」を正しく用いて表現できない児童が一部見られる。
- ・はね・はらい・とめなどを意識し、正しく丁寧に文字や漢字を書けるよう、指導が必要な児童も見られる。

### 【高学年】

- ・話し合い活動の中で、自ら積極的に意見を言える児童が絞られてしまっていたので、どの子も発言しやすい環境づくりや、教材の工夫が必要である。
- ・文章を書くことに苦手意識をもっている児童に対する手立てが必要だと感じた。書く視点を与えたり、モデルを提示したりするなど、児童の困り感に寄り添った指導ができるように個別の手立てを準備しておく必要がある。
- ・感染防止対策のため、区内図書館等を利用した読書活動が実現できず、教科書教材で学んだ読み方を活用して、他作品を活用して読みまとめる活動ができなかった。コロナ禍での読書活動をいかにして工夫、充実させていくか創造する必要性を感じた。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った。 ○…目標値と同程度。 △…目標値を下回った。

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	◎ (第4学年時)	
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。</li> <li>言葉の特徴や使い方に関する事項の「主語・述語の関係」においては、目標値よりわずかに上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。</li> <li>書くこと領域の「段落の役割を理解し2段構成で文章を書く」においては、目標値よりわずかに上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。主体的に学習に取り組む態度は概ね定着している。</li> </ul>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。</li> <li>言葉の特徴や使い方に関する事項の「修飾語・指示語」においては、目標値よりわずかに上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。</li> <li>書くこと領域の「文章の推敲」「自分の意見を明確に書く」においては、目標値よりわずかに上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。体的に学習に取り組む態度は概ね定着している。</li> </ul>

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名を正しく書くことを繰り返し指導していく。(指導計画)</li> <li>文の中で漢字を使うことや、促音、拗音、長音の書き表し方を確実に習得するために、視写や聴写などを取り入れたり、書いた文章を推敲させたりし、表記方法を意識させる。(指導計画・授業構成)</li> <li>漢字小テストを頻繁に行い、学習した漢字を確実に覚えられるようにする。(授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日のスピーチ活動などを意図的に設定し、聞き手を意識しながら、相手に伝わるように行動したことや経験したことの順序に気を付けて話を構成するように指導をする。(指導計画)</li> <li>あのねノートを活用した書く活動を取り入れ、日常的に文章を書く機会を作る。(指導計画)</li> <li>交流活動を通していろいろな考えを知り、自分の考えを明確にし、読み取りに活かせるようにする。(指導計画・授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年の児童にとって自らの学習を調整することは難しい面もあるが、その基礎を築いていく必要がある。(指導計画)</li> <li>単元の学習計画や一単位時間の流れを児童にも示し、見通しをもって学習できるように工夫する。(指導計画)</li> <li>ワークシートを用いて児童自身がその時間に何を学びどんな力が高まったのか、次に何を学ぶのか振り返りができるようにする。(授業構成)</li> <li>どの児童も主体的に学習に取り組めるよう、ワークシートや言語活動を工夫する。(指導計画・授業構成)</li> </ul>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字やローマ字を定着させるために、スキルや小テスト、タブレットを使った学習を通じて反復練習をしていく。また、日々の学習の中で既習漢字を積極的に用いることを伝え、意識付けを行っていく。日記等、文章を書く場合には、段落や、句読点、引用等の使い方を確認する。(指導計画・授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文では、「はじめ」、「中」、「終わり」の構造や、問いと答えの関係、段落相互の関係に着目させるとともに、作者の主張・意見などを読み取ったり考えたりする活動を継続していく。(授業構成)</li> <li>・物語文では、子供達自身で叙述を基に場面分けについて考えるような活動を行う。(授業構成)</li> <li>・書く活動に関して、週末に日記の課題を出したり、学習感想や自分の考えを書いたりする機会を増やしていく。(指導計画・授業構成)</li> <li>・自学学習の際に必ず3行日記を追記するスタイルを継続する。(指導計画)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動の充実のために、教科書や、漢字スキルの学習、読書活動、調べ学習等で分からない言葉が出てきたときには積極的に国語辞典を用いるように指導していく。(指導計画)</li> <li>・主体的に授業へ参加する意識を高めるために、自分で考える時間と、ペアで考えを共有する時間、全体に共有する時間を設け、自分の考えを表現する機会を増やしていく。さらに、ハンドサインを活用し、発言が難しくても意思表示を必ずさせるようにする。(授業構成)</li> </ul>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力をつけるための活動を継続する。教科書に出てくる言葉の一つを取り上げて、この言葉はふさわしいのか討論する活動などを繰り返すことで、言葉についての知識と、言葉の一つ一つを深く考えるようになる。(指導計画・授業構成)</li> <li>・文と文との接続の関係や、文章の構成や展開などが身に付くよう、文章構成の型や手本を提示する。(授業構成)</li> <li>・単元ごとに、知識の幅を広げるために本を活用する。図書館及び読書学習司書を計画的に活用していく。(指導計画・授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文における双括型、尾括型、頭括型や、物語文における初め、中、終わり、起承転結、意見文の文章の流れなど、文章構成の型を意識した書く活動を継続的に取り入れる。(指導計画)</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識して、どの児童にも思考が深まる授業を心がける。書くことに支援が必要な児童には、タブレットを活用した表現活動を取り入れる。(授業構成)</li> <li>・話し合いの活動では、話し合う目的を児童に示す。(授業構成)</li> <li>・話す際は、話の内容が明確になるように、話の構成を考えるメモを作成させる。(授業構成)</li> <li>・タブレットや本などの資料を活用し、自分の考えが伝わるような表現の工夫を考えさせる。(授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に沿った課題設定、をする。そのために、児童が興味をもてるよう、身近な出来事を題材にしたり、他教科とのつながりも意識したりする。(指導計画)</li> <li>・単元ごとで身につく力や効果を明確に示していく。それを達成するために、どのように学習計画を立てていくのかを児童に考えさせる。それが目的意識となり、児童が学習に主体的に取り組むようになると考えられる。(指導計画・授業構成)</li> </ul>

#### 4 今年度の授業改善推進プランの検証

##### (1) 成果

###### 【低学年】

- ・書写の時間を中心に、視写や聴写を取り入れたことで、正しい字を書く習慣が身に付いてきた。
- ・漢字小テストを繰り返し行うことで、新出漢字が定着し、漢字検定にも9割程度の児童が合格できた。
- ・あのねノートを活用した書く活動を、1年間を通して日常的に行ったことで、文章を書くことへの抵抗が減り、4月当初に比べ、多様な題材で書けるようになった。
- ・「はじめ・中・終わり」の構成を意識して書いたり、「まず・つぎに」などの順序を表す言葉を使って説明を書いたりするなど、学習したことを生かして書くこともできた。
- ・「ことばのたからばこ」を活用し、豊かな言葉を取り上げて書く指導を継続的に行った。多くの語彙が蓄積・拡充され、自分の思いを表すのにふさわしい言葉を選んで書く児童が増えてきた。
- ・ワークシートを工夫したり、イメージマップなどの思考ツールを活用したりしたことで、主体的に学習に取り組み、構成を意識して文章を書けるようになった。
- ・授業の最後に、1時間の学びを振り返る時間を継続して設定したことで、児童自身がその時間に何を学びどんな力が高まったのか、次に何を学ぶのかを学習感想に書けるようになってきた。

###### 【中学年】

- ・漢字やローマ字を定着させるために、宿題やスキル、タブレットで反復練習を習慣化したり、既習漢字を積極的に用いることを伝えたりして、定着を図ることができた。
- ・「はじめ・中・終わり」の構成を考えて3つ以上の段落で構成した文章、調べたことをまとめた報告分を書くことができるようになってきた。また、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しようと意識して文章を書けるようになった。
- ・言語活動の充実のために、教科書や、漢字スキルの学習、読書活動、調べ学習等で分からない言葉が出てきたときには積極的に国語辞典を用いた。その結果、語彙力が増え、正しい言葉を使って文章を書ける児童が増えた。
- ・自分で考える時間、ペアで考えを共有する時間、全体に共有する時間を設け、考えを表現する機会を増やしたことで主体的に授業へ参加する児童が増えた。
- ・自分の興味、関心があることについて調べ学習を行うことにより、文章を書くことへの意欲を高めた児童が多かった。また、兄弟学級の児童への手紙を書く活動では、目的を意識して書くことができたので、苦手意識をもっている児童も、熱心に活動することができた。
- ・読書学習司書との連携を図り、関連図書読書、調べ学習、百科事典の使い方など、様々な分野の本に触れる機会を設けた。それにより、学習意欲や関心が高まり、学習後の読書活動にもつながった。

###### 【高学年】

- ・「事実」と「意見」とを分けて読んだり、書いたりすることに、意識して取り組めるようになってきた。
- ・語句や文法に関するクイズを授業の導入時に取り入れたり、辞書での語句調べの活動を行ったりしたことで、児童が「語彙を増やそう」と意識したり、進んで辞書を活用しようとしたりする姿が見られた。
- ・「書く」際に型や手本を示したことで、どの児童も自分なりに書くことができた。
- ・書いたり、話したりする単元では、導入や題材の設定場面を工夫したことにより、興味をもち主体的に取り組む姿が見られた。
- ・センテンスカードの活用や、教材の工夫、子供たちの思考を揺さぶる発問の工夫をしたことは、児童の学びに向かう主体性につながり、効果的であった。
- ・説明的文章では、構造的読解力を身に付けるために板書の工夫やICT機器の活用、文章の全体像の視覚化などを取り入れた。それにより、児童が要旨や事例・文章構成の型を捉えられるようになった。また、文学的文章では、中心人物の心情変化を読めるようになった児童が増えた。
- ・説明的文章で学んだ文章構成について、その学びを活用して自らの書く活動に生かす児童が増えた。
- ・単元計画をクラス全体で考えたり、児童に委ねる場面を意図的に設定したりしたことから、児童が目的意識をもって取り組み、自ら学び方をデザインする力が高

## (2) 課題

### 【低学年】

- ・促音、拗音、長音の書き表し方や、片仮名で書く言葉が身に付いていない児童が見られる。単元として扱えば理解できるし文章の推敲などでは気付くことができるが、普段の書く活動では抜けてしまう。継続的な指導や個別指導を取り入れていく必要がある。
- ・スピーチ活動を日常的に取り入れ、抵抗なく話せる児童が増えたが、話すことに苦手意識をもち、適切な大きさの声で話せない児童が、学年で2～3名いる。
- ・制限のある中ではあったが、交流活動を取り入れてきた。交流活動を通していろいろな考えを知り、自分の考えを明確にし、読み取りや自分の考えの広がりや深まりに活かせるようにするために、今後も交流のねらいや目的、それが達成できる交流方法を一つ一つ検討していくことが必要である。

### 【中学年】

- ・改行や段落、句読点など、作文の形式について定着していない児童が多数いるので、個別的に声をかけるだけではなく、原稿用紙の正しい使い方等、全体指導をしていく。
- ・「そして」「それから」を多用し、思いつくままに書いたり、「しかし」を誤用していたりする。適切な接続語を用いて段落を構成することができるようにしたい。
- ・友達と話し合いを行うことはできるが、ノートに考えを表現することが難しい児童がいる。形式の確認の他に、表現する際の語彙を増やしていくことが課題である。
- ・形式的に対話を作り上げることはできるが、何を、どのように伝え合うかについて今後深めていく必要がある。
- ・漢字の読み書きには定着の二極化が見られるので、苦手な児童への丁寧な指導を続けていく。

### 【高学年】

- ・学力の個人差を補う手段として、様々な学習形態を用いてきたが、うまくいったものもあれば、不十分なものもあった。「意見を言う児童が限られている」という課題を解決するためには、今後も授業のデザインを模索していく必要がある。
- ・「事実」と「意見」とを分けて書いたり、「反論」となる自分の主張をまとめたりするためには、論理的な思考力が必要となるので、思考力を育てていくような指導も計画し実行していく必要がある。
- ・語彙力や表記の仕方などは、継続して指導していく必要がある。
- ・全員が授業に主体的に参加して、読む力を高めるためには、どのような手立てを用いるといいのか、吟味が必要である。
- ・児童が教材文とは異なる他の作品を読む際に、授業で学んだことが汎用的能力として使えるようにするには、どのような指導を行っていくといいのか、単元全体の計画、指導方法、指導内容などさらなる研究が必要である。